



大阪有機化学工業株式会社
OSAKA ORGANIC CHEMICAL INDUSTRY LTD.

会社説明会および 2015年11月期 第2四半期決算説明会資料

2015年7月13日



目 次



大阪有機化学工業株式会社
OSAKA ORGANIC CHEMICAL INDUSTRY LTD.

1. 大阪有機化学工業株式会社の事業概要
2. 2015年11月期 第2四半期 決算概要
3. 2015年11月期業績予想
4. 中長期経営計画 Next Stage 10
5. 中期事業計画(2015～2017)
6. 資本政策
7. CSR活動



1. 大阪有機化学工業株式会社の事業概要

沿革



1946 (昭和21年) 当社設立「カナダバルサム」・「ツエーデル油」の製造販売開始

1949 (昭和24年) 「酢酸エステル」製造販売開始

1953 (昭和28年) 日本で初めて「**アクリル酸**」の製造販売開始

1961 (昭和36年) 大阪工場開設

1969 (昭和44年) 神港有機化学工業株式会社(連結子会社)を設立

1970 (昭和45年) 「**特殊アクリル酸エステル**」の製造販売開始

1981 (昭和56年) 金沢工場開設

1983 (昭和58年) 「**化粧品(頭髮用)材料及び電子材料**」の製造販売開始

1986 (昭和61年) 「**医薬中間原料**」の製造販売開始

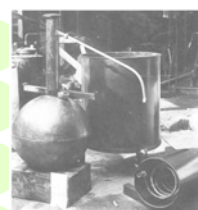
1987 (昭和62年) 大阪証券取引所市場二部に上場

2000 (平成12年) 酒田工場開設

2005 (平成17年) 東京証券取引所市場第二部に上場

2011 (平成23年) 東京証券取引所市場第一部に指定

2014 (平成26年) 光碩(上海)化工貿易有限公司(連結子会社)を設立





● 事業所 ● 工場 ● グループ



光碩 (上海) 化工貿易有限公司

神港有機化学工業株式会社

金沢工場

酒田工場



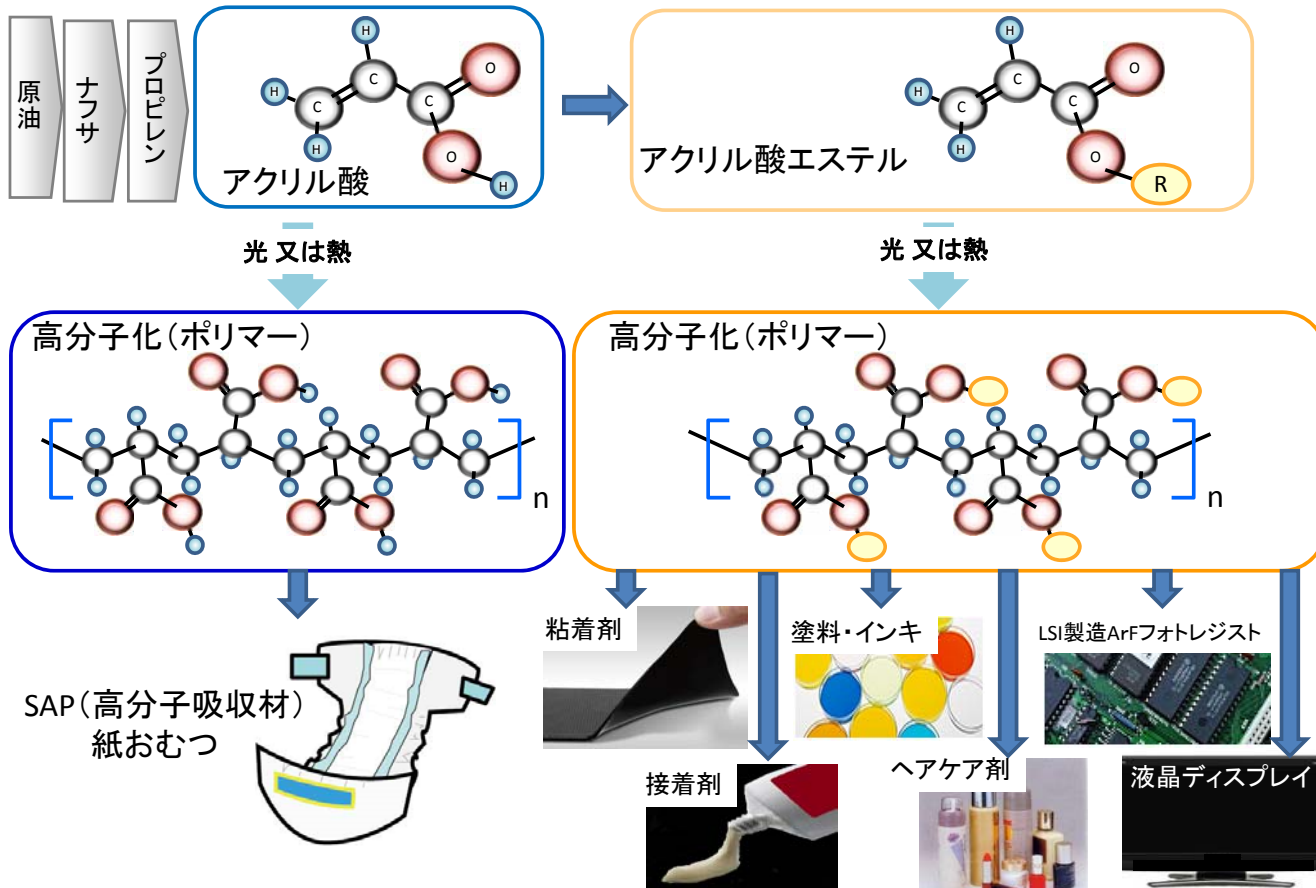
八千代事業所

東京オフィス

本社

大阪工場

身近な製品に利用されるアクリル酸エステル



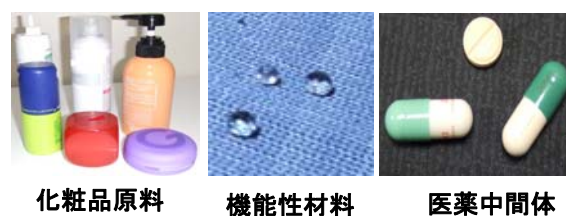
化成品事業



電子材料事業



機能化学品事業



当社のニッチ・高シェア製品

製品群	シェア	用途
特殊アクリル酸エステル (IBXA・4-HBA等)	高シェア	 自動車用塗料  各種塗料  粘接着材
高精細PS剤	高シェア	 液晶TV  スマートフォン・タブレット 
ArFフォトレジスト用 アクリル酸エステル	トップシェア	 LSI

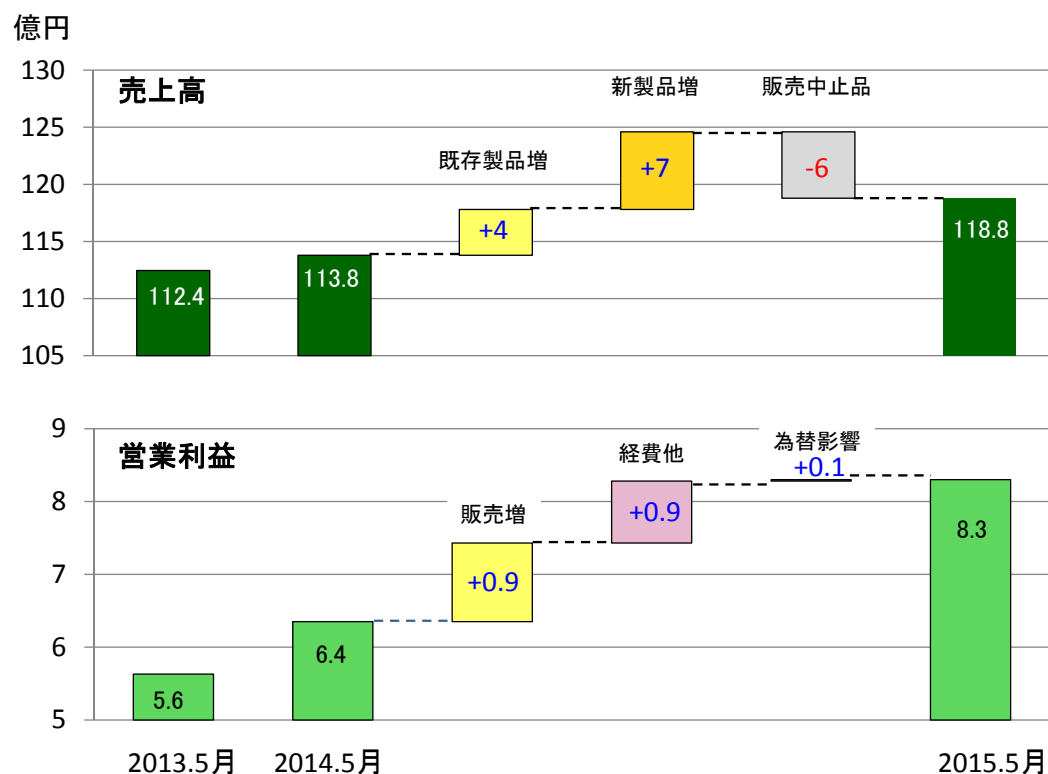


2. 2015年11月期 第2四半期 決算概要

2015年11月期 第2四半期 決算概要



	2014/05	2015/05	増減	前年比
売上高(百万円)	11, 379	11, 879	+500	104%
営業利益(百万円)	635	830	+195	131%
経常利益(百万円)	670	892	+222	133%
当期純利益(百万円)	419	597	+178	142%
純資産(百万円)	23, 467	25, 467	+2, 000	109%
自己資本比率	70. 3%	72. 4%	—	—
一株当たり純利益(円銭)	18. 29	26. 05	—	—



(金額単位: 百万円)

		2014/5		2015/5		増減	前年比
			(構成比率)		(構成比率)		
売上高		11,379		11,879		+500	104%
	化成品事業	5,768	51%	5,498	46%	-270	95
	電子材料事業	2,852	25	3,723	31	+871	131
	機能化学品事業	2,758	24	2,656	22	-102	96
営業利益		635		830		+195	131
	化成品事業	182	29%	184	22%	+2	101
	電子材料事業	390	61	570	69	+180	146
	機能化学品事業	63	10	75	9	+12	119

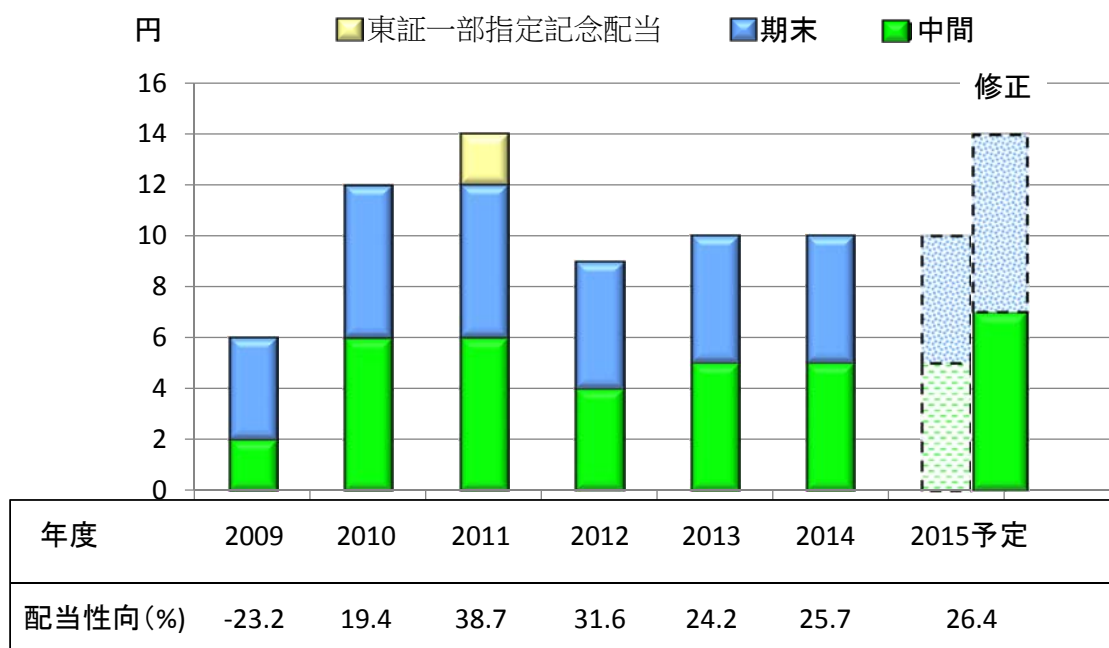
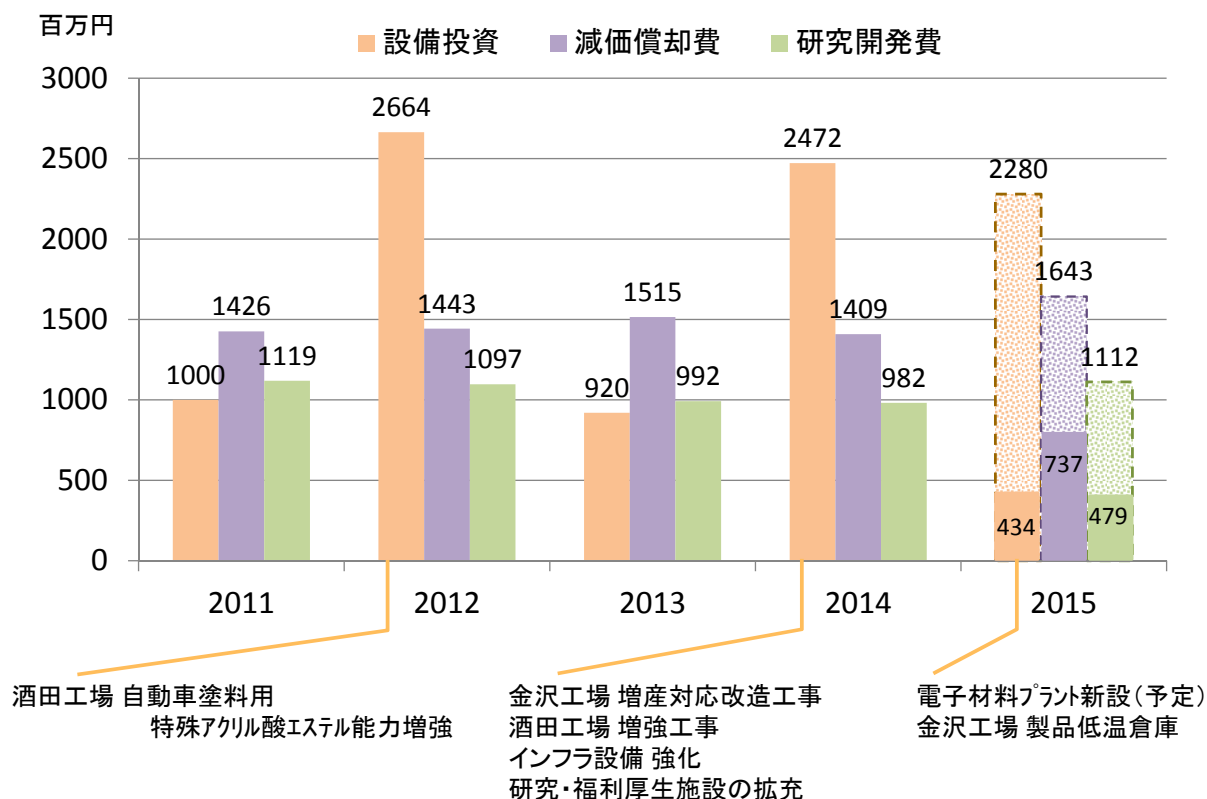


3. 2015年11月期業績予想

2015年11月期 業績と経営指標予想



	2014/11	2015/11		前年増減	前年比
		当初予想	見直し予想		
売上高(百万円)	23,790	23,970	23,970	+180	101%
化成品事業	11,483	10,710	11,146	-337	97%
電子材料事業	6,618	7,198	7,489	+871	113%
機能化学品事業	5,688	6,053	5,335	-353	94%
営業利益(百万円)	1,358	1,338	1,746	+388	129%
経常利益(百万円)	1,468	1,424	1,871	+403	128%
当期純利益(百万円)	891	919	1,205	+314	135%
純資産(百万円)	23,921	—	24,949	+1,028	104%
売上高営業利益率(%)	5.7	—	7.3	+1.6	—
ROE(%)	3.8	—	5.0	+1.2	—
一株当たり純利益(円銭)	38.90	—	52.58	+14.05	—
自己資本比率(%)	69.5	—	72.5	+3.0	—





4. 中長期経営計画 Next Stage 10

基本理念・社是

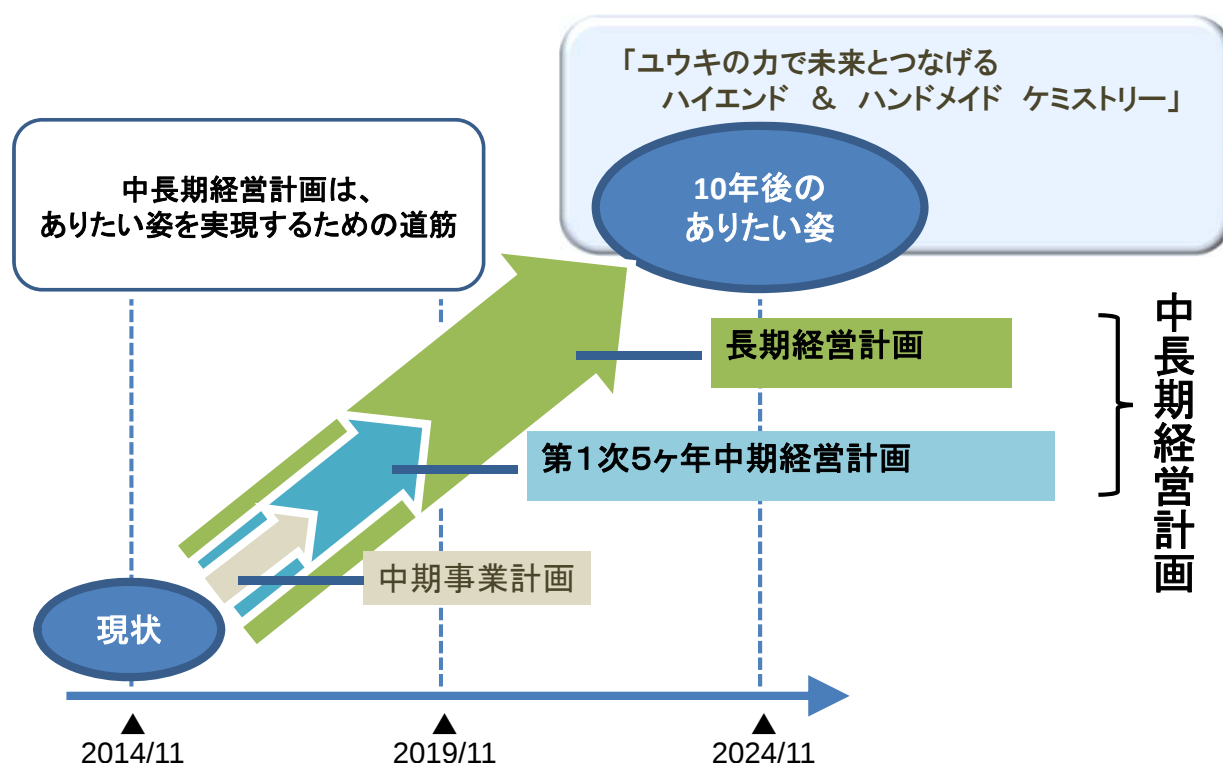


基本理念

従業員の愛情と和と勤勉を大切にし、常に新しい技術の研鑽に努めることにより社会と産業界の進歩、発展に貢献する。

社是

1. 会社と従業員は、共に手を携えて進む一心同体にしていわゆる運命共同体であり、会社の繁栄は従業員の活動に負い従業員の幸福の源泉は会社の繁栄にある。
2. 会社の基本方針は常に偏向と独善の誤りを排し、各自の誠実とたゆまざる努力と、お互いの信頼と協力と愛情により、個人の人格を高め優れたる生産活動を通じて社会に奉仕貢献することである。



基本方針	展開目標
1. 既存事業における3つのNo.1 実現に向けたビジネスモデルの革新	『表面修飾・配列制御』『高純度』技術による機能性No1 少量多品種と開発・生産スピードNo.1 一貫製造体制による顧客プロセスのソリューションNo.1
2. 新たな収益の柱となる新規事業の創出	『表面修飾・配列制御』『高純度』技術による エレクトロニクス・ライフサイエンス・環境・エネルギー 分野を開拓
3. グローバル事業の拡大・推進	化成品・機能化学品：中国、アメリカを主対象地域 電子材料：中国、韓国、台湾を主対象地域 現地生産の検討・提携・M&Aも考慮
4. 経営・事業基盤の整備と強化	トータルコストの上昇抑制 人材育成・獲得と技能伝承 効率的な組織基盤の整備



(金額単位:億円)

	2014年 11月期	2015年 11月期見込み スタート年	2019年 11月期 5年後目標	2024年 11月期 10年後目標
売上高	238	240	270	300以上
化成品事業	115	111	123	—
電子材料事業	66	75	82	—
機能化学品事業	57	53	65	—
海外売上高比率(%)	15	17	22	30%以上
営業利益	14	17	22	—
営業利益率(%)	6	7	8	10%以上

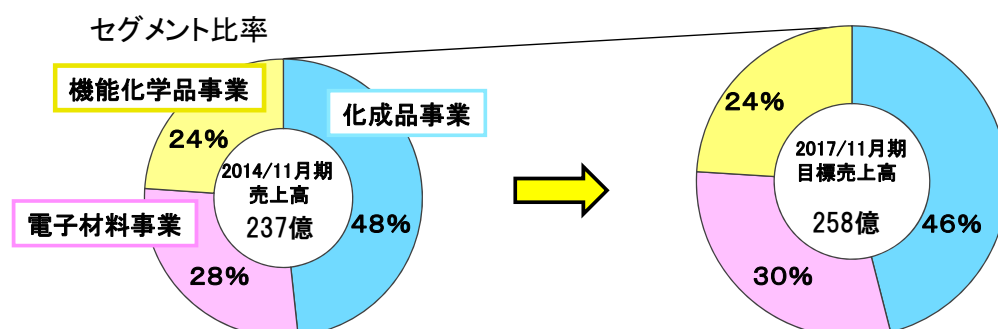


5. 中期事業計画 (2015～2017)

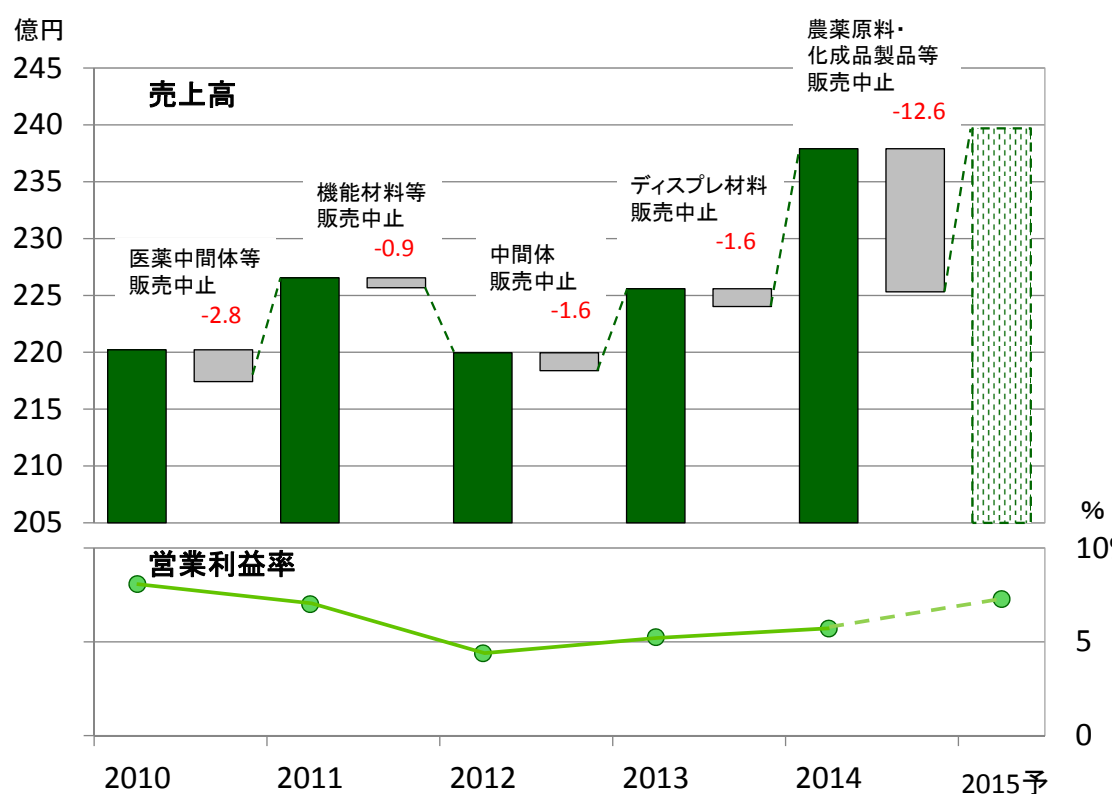


(金額単位: 百万円)

	2017/11月期 目標値	2014/11月期比	
売上高	25,879	23,790	109%
営業利益	1,622	1,353	120%
経常利益	1,710	1,465	117%
当期純利益	1,103	890	124%
営業利益率	6.3%	5.7%	110%
海外売上比率	17%	15%	113%



通期業績と合理化の推移





事業分野

自動車用塗料・粘接着材・特殊インク(UVインクジェット)等

事業環境

- ・国内産業の伸び悩み
- ・市場の中心はアジア、米国

当社の強み

- ・アクリル酸エステルの豊富なラインナップ
- ・製造技術の蓄積

中期施策

・海外市場への拡販強化	・特殊アクリル酸エステル(IBXA・4-HBA等)の拡販
・プロセス改善	・製造コスト低減
・用途の多様化 ・新製品開発	・新規用途開拓とそれに合わせた製品開発強化

電子材料事業中期事業計画

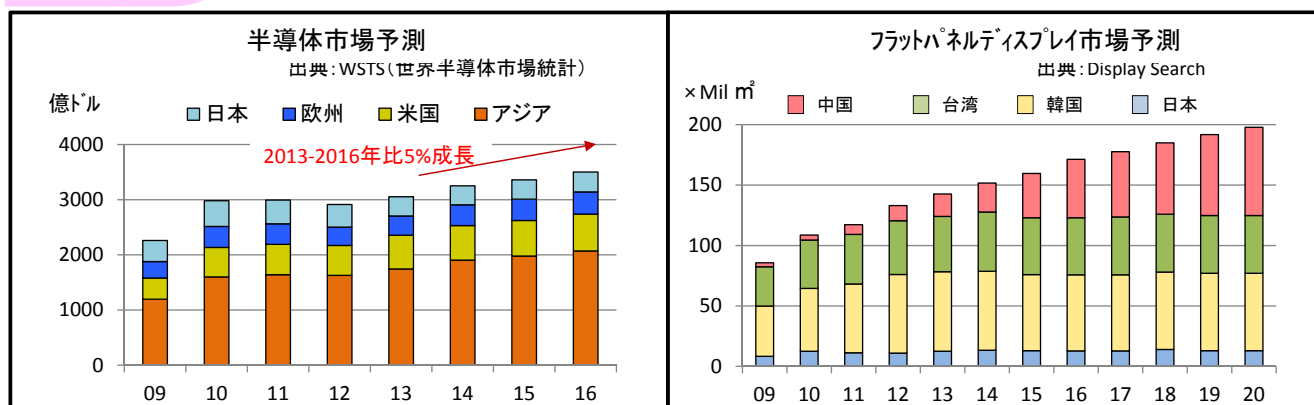


事業分野

半導体関連、表示材料関連

事業環境

市場はアジアシフト



当社の強み

1. 光微細加工プロセスのキーマテリアル(特殊アクリル酸エステル類)の開発～生産の一貫対応。
2. 高度な品質管理体制

中期施策

海外展開強化とシェアアップ	・来春、能力増強の設備完成 ・ディスプレイ用新規表示材料の拡販
次世代材料開発 高精細PS材料・絶縁膜材料 光制御材料・次世代レジスト材料	・市場動向を精査し、販売と技術一体となった開発活動

事業分野

化粧品基材・特殊溶剤・機能性材料

事業環境

- ・アジア圏の化粧品市場は高品質化と購買力向上
- ・特殊溶剤は高機能用途へシフト

当社の強み

- ・機能性アクリルポリマーの設計技術
- ・精密有機合成技術と精製技術

中期施策

・化粧品基材の海外展開	・アジア圏をターゲットにした拡販活動
・新規機能材料の販売促進	・超親水性コート剤の販売計画を見直す ・顧客とタイアップした新規機能材料の開発を促進

6. 資本政策

基本方針

当社は、企業価値の向上を目指し、財務体質の健全性、資本効率及び株主還元の最適なバランスを図ってまいります。

配当政策

配当性向30%を重要な指標のひとつとし、安定的な支払いに努めます。

自己株式の取得

経営環境の変化に機動的に対応し、株主価値の向上に資する資本政策等を可能とするため、自己株式の取得を行います。

重要経営指標目標

売上高営業利益率10%以上、ROE5%以上を目標にします。
自己資本比率70%前後を維持します。

政策保有株式に関する方針

保有基準を定め、保有理由を明確に開示します。

資金調達(増資等)の方針

健全な財務体質の維持、資本効率の向上、株式価値の希薄化等への十分な配慮と調達コスト・スピード等を考慮し、資金調達を行います。

7. CSR活動

持続可能社会の実現・自然環境との調和

化学物質 = 社会に必要不可欠 = 自然環境との共存発展

技術的な視点

エネルギー・廃棄物の削減	・OYPM活動(全従業員参加の生産保全活動でエネルギーの効率活用に取り組み) ・生産プロセスからの副生油(廃油)を利用するボイラーを開発し運用
環境配慮技術への取り組み	・副反応や廃棄物発生が少ないアクリル酸エステル製造法を工業化
化学物質管理と情報開示	・法令を遵守し管理 ・環境・社会報告書をHPに公開



社会貢献活動

積極的な地域社会活動への参加を実施



クリーンビーチ石川清掃活動参加



大和川・石川クリーン作戦参加



鳥海南工業団地友好会
クリーン作戦参加